



学 校 便 り 琢 磨

第 1 号 R2.5.11 三豊市立詫間小学校

教育目標 『 豊かな人間性と活力に満ちた、琢磨する子どもの育成 』

- 子ども像**
- **学びをみかく** 自ら学び自ら考える子ども
 - **心をみかく** やさしく思いやりのある子ども
 - **身体をみかく** 心身ともに健康で逞しい子ども



校長 真鍋 佳樹

新緑が美しい季節となりました。始業式から、わずか一週間後に臨時休業日となり、また二回にわたり休業日が延長されてしまいました。詫間小学校の児童の皆さん、保護者の皆様には、多大なご負担、ご心配をおかけし、申し訳ない気持ちでいっぱいです。四百九十二名の子どもたちの姿を見ることができない学校、声を聞くことができない学校が、いかに寂しい場所であるかを痛感し、学校再開の日を、心から待ちわびている今日この頃です。

本来ならば、四月に「学校便り第一号」を発行しなければいけません。この時期となつてしまったこと、深くお詫びいたします。

本年度は、十四名の新任・転入があり、五十八名の教職員で、「豊かな人間性と活力に満ちた、琢磨する子ども」を育ててまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

令和2年度 詫間小学校 全教職員紹介

No.	担任・担当	氏 名	No.	担任・担当	氏 名
1	校 長	真鍋 佳樹 転入	30	3, 4 年算数	資延 由紀 転入
2	教 頭	大山 貴久	31	5, 6 年算数	横山 誉子 転入
3	教 頭	藤本 博文 転入	32	2～6 年音楽	佐藤 實保 転入
4	1 年松組	香川 朋子	33	初任者指導	齋藤 恵子 転入
5	1 年竹組	三木夕花里	34	養護(保健)	桑島 佑季
6	1 年梅組	前田 夏奈	35	栄養(食育)	大西 美代
7	2 年松組	綾 美代子	36	学校図書館司書	角田ちなつ 新任
8	2 年竹組	宮武 佑希 新任	37	事務(事務室)	近藤 幸美
9	2 年梅組	横山多美子	38	事務(事務室)	氏家 聖代 転入
10	3 年松組	近藤 貴代 転入	39	用務員(事務室)	黒浜真由美
11	3 年竹組	藤村 直輝	40	支援員(1年 月火)	真鍋 純子
12	3 年梅組	石井 八起	41	支援員(1年 水木金)	圖子ひとみ
13	4 年松組	川原小百合	42	支援員(1年)	白井 清美
14	4 年竹組	岡田 知之	43	支援員(2年)	安藤佐代子
15	4 年梅組	松本 育代	44	支援員(3年 月火水)	小野久身子
16	5 年松組	片山 大輔	45	支援員(3年 木金)	小林万利子
17	5 年竹組	細川 由貴	46	支援員(桜組)	筒井 光枝 転入
18	5 年梅組	十鳥 良太	47	支援員(桜組)	船江 初美
19	6 年松組	野田香菜子	48	支援員(桃組)	佐藤 文香
20	6 年竹組	北原 寛之 新任	49	支援員(桃組)	宮本 洋子
21	6 年梅組	岡根 平	50	支援員(通級)	加藤佳代子
22	桜組①	片山美喜子	51	スクールサポートスタッフ	木村 知子
23	桜組②	竹内 峰雄 転入	52	給食(調理員)	大森 千代
24	桃組①	大宮由美子	53	給食(調理員)	森上 美穂
25	桃組②	太田 基貴	54	給食(調理員)	曾根 光見
26	通級指導教室	秋山 正子	55	給食(調理員)	真鍋 曜子
27	3～6 年理科	藤田 明德	56	給食(調理員)	三宅 翔子
28	1, 3, 4 年算 6 社	浪越 由記	57	給食(調理員)	大谷 実築
29	1, 2 年算・体 4 年理	井上 暖 新任	58	給食(調理員)	安藤 沙織

※ ALT キャサリン

真鍋校長の独り言 その1

学校便りの裏面には、「真鍋校長の独り言」を、毎回、掲載させていただきたいと思います。伝統的な言葉では、「随筆」、最近のSNSの言葉では「ブログ・つぶやき」のようなものです。この「独り言」を通して、私の見方・考え方、心の中を、児童の皆さん、保護者の皆様に少しでもお伝えできれば幸いに存じます。ぜひ、ご家族でお読みください。

私は、今から10年前の平成22年から3年間、教頭として本校に勤務したことがあります。新米の教頭でしたので、赴任した4月は、本当に大変でした。当時も、詫間小学校は、500人くらいの子どもたちがいて、右も左も分からない状態で、4年生～6年生の図工を担当したり、突発的な事故や事件に対応したり、先生方の質問に答えたり、書類の山を片付けたり・・・朝7時には出勤し、帰りは、早くも22時頃だったと思います。実は、私は教員生活34年になりますが、平成22年の4月の中旬、教員人生で初めて、家を出ようとした時に、体が全く動かないということを一度だけ経験しました。学校に行く気はあるのに、どうしても足を動かすことができなくなってしまったのです。玄関で倒れるようにうずくまっていると、妻が、「何しよん？きつさと学校に行きな！しんどいのは、あなただけではない！子どもたちの方が、がんばっているのに！情けない！」と、厳しく声をかけてくれて、そのはずみで足が動き出しました。

学校に向かいながら、少し冷静になって考えてみました。そして、ある人の言葉を思い出しました。

「人は、どうなるか分からない、ずいぶん先のことばかり心配する。それは、それで大切なことだが、遠い将来のことばかりを心配して思い詰めて、今の自分をだめにしてしまっている。まずは、何も心配せず、今の君たちのままで、今日のことだけ考えたらいい。今日が終われば明日、明後日。そして、3日経てば、何かが分かってくる。見えてくる。3日過ぎたら、次は3週間、そして3ヶ月。いつの間にか、『だいじょうぶ』になっているものだ。」

おそらく、私は「教頭になった」ということで、こうしなければいけない、こうでなくちゃいけないという思いが強くなり過ぎ、足が地に着いていなかったのだと思います。できないことばかりを数えて落ち込み、自分の力の無さを嘆き、これから先の不安ばかりを募らせていたのだと思います。そうだ、まずは、背伸びせず、1日をしっかり生きよう、今日できたことだけ数えよう。それを繰り返していけば、きっと未来はだいじょうぶだ。

そんなことに気づくことができた、とても貴重な体験でした。

ところで、あの時にふと思い出した言葉。誰の言葉だったのでしょうか？それは、私が中学生の時の担任の先生の言葉だったのです。入学したばかりの頃、ホームルームで話された言葉だったと思います。当時は、何気なく聞いていて、自分の心には全く響かなかったのに、何十年も、その言葉を聞いたことさえ忘れていたのに、ふと思い出したのです。厳しい先生で、何か、いつも難しい話（説教）ばかりしていた記憶しかなかったのに・・・。

教育というのは、すぐに答えや成果が出るものではありません。私は、「教育とは、土地を耕し、肥やしを与えるような仕事」だと思っています。今すぐに効かなくても、いつか必ず効く。あの時の担任の先生の言葉が突然、よみがえったように。そう信じて、今、一番必要だと、大切だと考えることを、子どもたちに与えていくことだと思います。今も大切ですが、子どもたちの10年後、20年後も大切です。予測困難な時代を生きる子どもたち。いつかは、親や学校という支えが無くなっても、たくましく幸せに生きていくことができるように、学校での教育は行われなければならないと思っています。

約3ヶ月もの臨時休業日が続き、子どもたちも保護者の皆様も、もちろん教職員だって経験したことがない不安定な「今」だからこそ、ふと10年前の本校に赴任した時のことを思い出したのかもしれない。